

基礎研 レター

レセプトデータを利用した 疾病状況分析の試み

保険研究部門 研究員 村松 容子
e-mail: yoko@nli-research.co.jp

1—はじめに

一般に傷病の発生状況や医療費の動向を知るための統計として、厚生労働省の「患者調査」や「国民医療費」が使われる。これらの統計は、医療施設や医療費の利用状況を、属性別や傷病別で時系列で捉えることができるが、個々の患者が診療の過程でどの程度受療し、どの程度医療費がかかったかについてはわからない。

生命保険とのかかわりで言えば、個々の患者の受療状況や医療費への関心が強い。そこで、本稿では、「乳がん」を事例に、公的統計では捉えられない個々の患者についての受療状況や医療費、およびこれらの分布について、レセプトデータを使った分析を試みる¹。

2—疾病状況がわかる統計

1 | 患者調査と国民医療費統計でわかること

厚生労働省による「患者調査」は、医療施設を利用する患者の傷病の状況等の実態を明らかにし、医療行政の基礎資料を得ることを目的としており、医療機関を受療する患者の人数とその属性、1回の入院における在院期間など主として医療施設の利用実態を疾病別に調査している。昭和 28 年から継続的に実施されている調査であるため、多くの疾病について国全体での推移を確認することが可能だ。しかし、調査は特定の対象日²に実施しているため、調査を行った時点での患者の属性別、傷病別の平均像がわかるだけで、個々の患者の継続的な診療に関する情報を得ることはできない。

また、医療費については、厚生労働省から「国民医療費」が公開されている。しかし、「国民医療費」も国民に必要な医療を確保していくための基礎資料を得ることを目的として収集された統計であるため、患者の属性別や傷病別の医療費の平均像を確認することはできるが、個々の患者の医療費はわからない³。

¹ 使用するデータベースは、2012 年度財団法人かんぽ財団による研究助成によって購入した。

² 調査は、入院および外来による受療に関する調査は医療機関ごとに定められた特定の 1 日に、退院患者に関する調査は特定の月に実施している。

³ 2008 年以降は性別の医療費が、2011 年以降は推計新規入院件数、推計平均在院日数、推計 1 入院あたり医療費が新たに公表されるようになった。

2 | レセプトデータでわかること

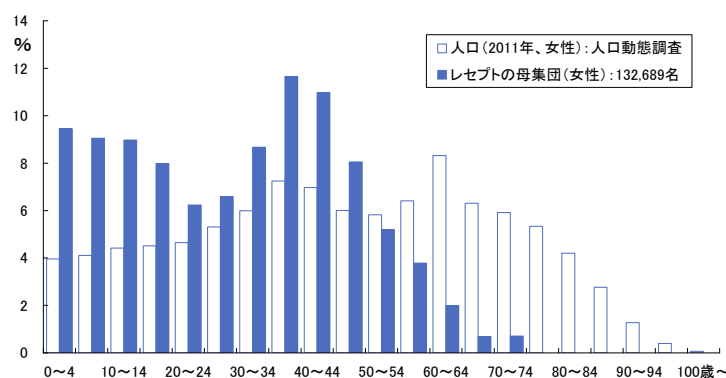
一方、個々の患者がどういった病気で、どういった治療を受け、どのぐらいの日数受療し、最終的にどの程度の医療費がかかったかなどの患者の継続的な受療状況に関しては、レセプト（診療報酬明細書）データで捉えることができる。レセプトとは、患者が受けた診療について医療機関が発行する明細書のこと、診療行為が診療報酬請求ルールに基づいて記載されている。レセプト情報を利用すれば、「患者調査」や「国民医療費」のような患者の属性や傷病別の平均像だけでなく、患者の傷病の併発状況や診療過程における受療状況などの情報を得ることができる。しかし、レセプトは、個人情報保護の問題や、データの整備上での課題があり、国全体のデータは公開されていない。

3——レセプトデータによる分析

1 | 使用するデータとデータの特徴

本稿で使用するレセプトデータベースは、市販されている（株）日本医療データセンターによるものである。いくつかの健康保険組合のデータについて個人情報を完全に削除した状態でデータ整備を行っており、各種研究で活用されている。このデータベースは、健康保険組合のレセプトを中心とするため、日本の人口構造と比較すると高年齢層のサンプルがやや少ない点には注意を必要とする（図表1）。

図表1 人口動態統計とデータベース母集団の年齢分布(女性)



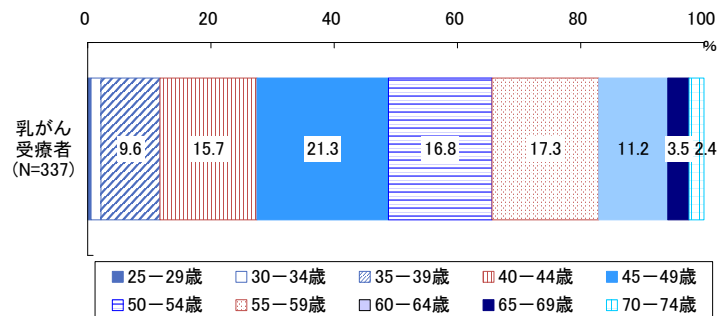
資料:厚生労働省「人口動態調査」(2011年)と、(株)日本医療データセンターのデータベースを使用して筆者作成。
(株)日本医療データセンターのデータベースは、
観察期間:2011年1月~12月(各年齢階層の人数は1月と12月の平均とした)
レセプトの母集団:約30万人。

2 | 「乳がん」の事例

観察期間を2011年1~12月の1年間とし、この期間に一度でも「乳がん⁴」を理由に受療したサンプル（以下「乳がん受療者」とする。）を対象に分析を行った。

母集団は約30万人（うち女性は約13万人）で、乳がん受療者は全部で337人だった。乳がん受療者の年齢構成は、45~49歳群団が2割を超えて最も多い（図表2）。母集団の年齢構成が若いことから、全人口と比べるとやや若めであると考えられる。

図表2 「乳がん受療者」の年齢構成



資料:(株)日本医療データセンターのデータベースを使用して筆者作成。
観察期間:2011年1月~12月。
レセプトの母集団:約30万人(うち女性約13万人)。

⁴ ICD10による分類の「C50」を対象とした。疑い病名は除いた。本稿では、女性のみを対象とする。

なお、健康保険組合は企業に勤める組合員本人とその家族で構成される。組合員本人は、そもそも就労していることから健康状態が比較的良好な可能性がある。しかし、今回対象とした「乳がん受療者」の84%は、組合員の家族であることから、分析対象者の健康状態は全人口に近い水準であると考えられる。

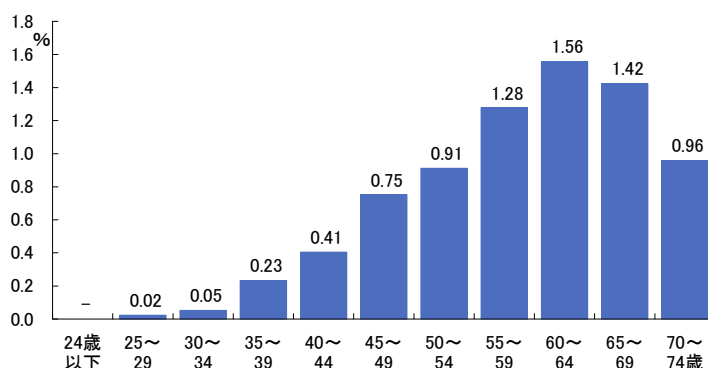
4—集計結果

1 | 母集団に対する乳がん受療者の割合

母集団に対する乳がん受療者の年齢階層別割合は、25歳以上の母集団（女性）の0.48%だった。年齢階層別に見ると、25～29歳群団以降高まり、65歳以降低下する（図表3）。ピーク時の割合は60～64歳で1.56%となった。

図表3 「乳がん受療者」の割合（年齢階層別）

※分母の年齢階層別人数は、2011年1月から12月の平均とした

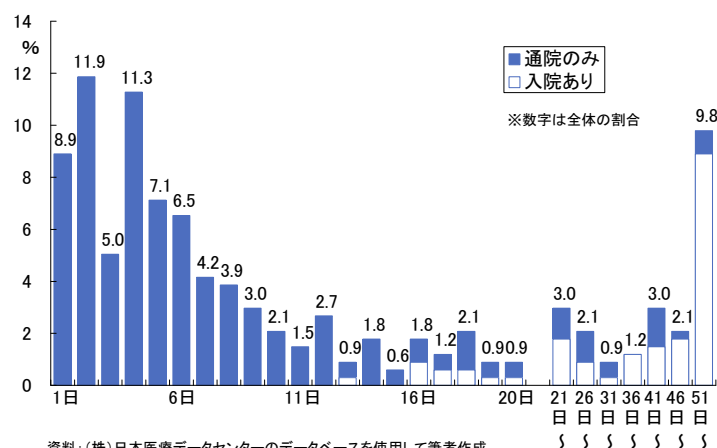


資料：(株)日本医療データセンターのデータベースを使用して筆者作成。
観察期間：2011年1月～12月。

2 | 受療日数の分布

1年間に乳がんを理由として入院または通院した日数の分布をみると、1日のみの受療から50日を超える受療まで幅は広い（図表4）。受療日数の平均は16.9日で、全体の約半数が6日未満、4分の3が20日未満だった。通院のみの乳がん受療者と一度でも乳がんによって入院をした乳がん受療者の受療日数を比較すると、一度でも入院をした乳がん受療者の受療日数は16日間より長いケースが多い。しかし、1度も入院をしていないにもかかわらず、年51日を超えて受療しているケースもあった。

図表4 1年間の乳がんによる受療日数計の分布



資料：(株)日本医療データセンターのデータベースを使用して筆者作成。
観察期間：2011年1月～12月。
レセプトの母集団：約30万人(うち女性約13万人)。

1度でも入院をした割合は全乳がん受療者の2割程度で、1回の入院における平均在院日数は8.6日だった。しかし、入院をした受療者はこの1年間で平均2.3回入院していることから、1年間の入院日数合計は平均19.7日だった。

患者調査でも「平均在院日数」を計算しているが、患者調査の「在院日数」とは、1つの施設における1回の入院期間であり、1人の患者の1つの疾病に対して通算した在院期間ではない。そのため、患者が転院したり、短期間の入院を繰り返す場合、これらを通算した実際の在院期間より短めに算出される。レセプトデータでは、個々の患者の受療をトレースできるため、転院や入退院の繰り返しを行った場合も通算した在院期間を算出できる。

3 | 診療内容の分布

診療内容についてみると、1年間に1回でも放射線治療⁵を受けた患者が9.8%、1箇所でも手術⁶を受けた患者が22.6%（うち乳腺にかかわる手術⁷を受けているのが12.8%）であるのに対して抗がん剤治療⁸を受けた患者は52.8%と半数を超えている（図表5）。

図表5 主な治療についての受療割合

	(%)
放射線治療	9.8
手術	22.6
うち手術(乳腺部分)	12.8
抗がん剤	52.8

資料：(株)日本医療データセンターのデータベースを使用して筆者作成。

観察期間：2011年1月～12月。

観察集団：約30万人(うち女性約13万人)。

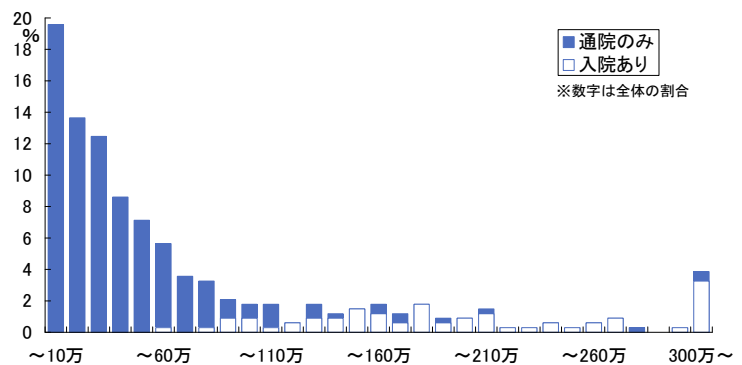
患者調査では、退院した患者に対して、化学療法や放射線治療を行ったか尋ねている調査年もあるが、その詳細や外来での受療状況についてはわからない。

4 | 医療費の分布

乳がん受療者の1年間の医療費（金額は10割分で記載）の分布をみると、20%弱が10万円未満、およそ半数が40万円未満であるが、4%が300万円を超えていた⁹（図表6）。1度でも乳がんを理由に入院した患者では医療費が高い傾向がある。

図表6 「乳がん受療者」の1年間の医療費の分布

※10割分で記載。



資料：(株)日本医療データセンターのデータベースを使用して筆者作成。

観察期間：2011年1月～12月。

レセプトの母集団：約30万人(うち女性約13万人)。

5— 今後の展望

以上のおおりに、乳がんを事例にレセプトデータでの分析を試みた結果、レセプト

データでは個々の患者に注目できるため、患者調査では十分に捉えることができなかった、個々の患者の受療日数や医療費の合計やその分布を知ることができる。しかし、その一方で、健康保険組合がベースとなっていることから、人口構成と比べて高齢層が少ないなど母集団の特性による制約も存在する。

患者調査と補完しあいながら使用することで活用の幅は広がると思われる。

⁵ 放射線治療（診療報酬点数表のMコードの診療）を受けたものとする。

⁶ 手術（診療報酬点数表のKコードの診療）を受けたものとする。

⁷ 手術（診療報酬点数表のK47の区分の診療）を受けたものとする。

⁸ 抗がん剤は、日本標準商品分類で「8742 腫瘍用薬」に指定されている医薬品とする。

⁹ 保険外診療は含まれないが、乳がんで一度でも病院を診療した患者の1年間の医療費全体であるため、別の疾病による医療費も含む。